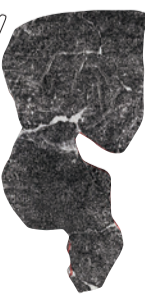
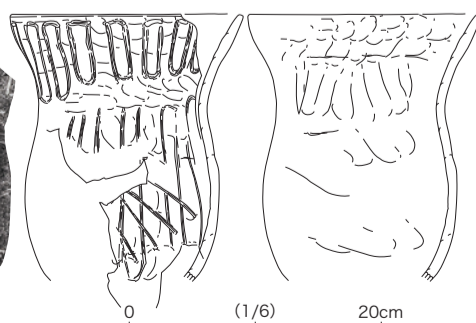


西地・東地遺跡出土縄文土器（縄文時代中期末）

西地・東地遺跡では、竪穴建物跡内にある石囲炉跡の中から、縄文土器の大きな破片がまとめて出土している。その中でも、左下写真にある竪穴建物跡の炉内からは、縄文時代中期末の土器が複数個体出土した。いずれも強い二次焼成の痕は認められないことから、炉の機能終了後に入れられたものであろうか。ここで取り上げた土器は、上方にラッパ形に開く深鉢で、口縁側と胴部側の境に当たる屈曲部で、縦長の楕円文が対向するように横方向に連続して展開する。残存の状況で器高は 21cm 程度と、容量の小さな深鉢である。



土器がまとめて出土した石囲炉跡



0 (1/6) 20cm